

＜平成30年度 ハローオリンピズム事業＞

オリンピック教室

実施報告書

千葉県 南房総市立富山中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年10月12日（金）

■ク ラ ス：8年A組（23名）、8年B組（22名）

■オリンピアン：伊藤 俊介 先生（水泳・競泳）【出場オリンピック／アトランタ大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、今日学んだことを今後の学校生活や日常生活にも活かしてほしい、と授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューを「エクセレンス＝頑張る、努力する」「フレンドシップ＝友情、助け合う、協力し合う」「リスペクト＝尊敬する、称え合う」と説明しこれを意識して取り組むよう指示し、準備体操に移る。
- ・タッチ鬼を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳び（90秒×全3回）を実施。ルール：引っ掛かったら1から数え直す、90秒間で最も多く連続で跳んだ数を競う。各回終了後、結果と作戦内容を発表。
- ・伊藤先生から、結果以上にチャレンジすることが大切であると伝える。

4. まとめ



- ・運動の授業では、短い時間の中で最後にはみんなが無意識にオリンピックバリューができていた、と拍手で称える。
- ・座学の時間は、今後各自がそれぞれの場所で活かせるよう、伊藤先生の経験を伝えながらさらにオリンピックバリューについて学んでいくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・自身の経験を踏まえてオリンピックバリューについて学んでいくと授業の目的を確認。
- ・アトランタ大会の記念メダルや、賞状等を見せながら当時の心情や様子や双子の弟の存在などを伝える。
- ・近代オリンピックの発祥を説明しながらクーベルタンについても触れる。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



合唱コンクールで聴く人を感動させるために何をすればいいか考えてみよう伝え、グループワークを実施。

発問：周りの皆を感動させるためにどんな準備が必要か、何が足りないか考えてみよう(A組：100%以上の力を出すために何が必要か)

発表：各班の代表者1名が前へ出て発表。(抜粋、順不同)

歌詞の意味を理解し、場面ごとに表情を変えて歌う、男女のバランスを良くするために積極的に意見を出し合う(エクセレンス)時間が空いたら練習しよう声を掛け合う、話し合いをすることで友情と団結が生まれる(フレンドシップ)仲間を尊敬し、いいところや悪いところを伝え合う、笑顔になることで声量が出ていい合唱ができる(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・各班からの発表がオリンピックバリューにつながっていることを確認した上で、今後の学校生活や部活動の中でも、お互いに喜び合い常に一声を掛けることができれば、今よりさらに良い関係を築くことができる。2年後の東京2020大会では、千葉県でもサーフィンやレスリング、テコンドー、フェンシング、ゴールボール、シッティングバレーボール、パラテコンドー、車いすフェンシングの試合が行われる。この授業をきっかけに、皆も観戦するだけでなく、ボランティアとして関わったりする等、オリンピックに興味を持ってほしい。将来この学校からオリンピックが生まれることも期待したいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
8年A組



8年B組





■ 記念品贈呈

8年A組



8年B組



■ 修了証贈呈

